

# 中国における Advanced Placement の活用状況と課題： 実施校の事例を通して

郭 晓博

神戸松蔭女子学院大学教育学部

Author's E-mail Address: gyohaku190kaku@shoin.ac.jp

---

## Utilization Status and Issues of Advanced Placement in China: Through the Case of the Implementation School

GUO Xiaobo

Faculty of Education, Kobe Shoin Women's University

### Abstract

本稿はアメリカの Advanced Placement (以下、AP) に注目し、中国における AP の実施状況、特徴及び活用方法を明らかにする。具体的には、まず中国における高大接続の特徴及び近年の改革動向を紹介する。次に、中国における国際教育プログラムの種類や特徴を説明する。第3に、中国における AP の導入状況、特徴及び活用方法を検討する。

分析の結果、AP は、中国においては、国際教育プログラムとして数多くの外国人学校や公立学校の国際部・国際クラスによって、実施されていることがわかった。AP は中国籍の生徒が海外の大学にアクセスするには、有効な手段として位置づけられている。また、AP はより多くの国際的な学生が中国の大学に入学する際の評価基準の1つとして活用することも期待できる。一方、今後 AP のような高大接続プログラムが中国国内の高大接続制度に取り組むことも必要であると考えられる。

This paper focuses on Advanced Placement (AP) in the United States and clarifies the implementation status, characteristics, and utilization methods of AP in China. Specifically, we will first introduce the characteristics and recent reform trends of *Articulation between Upper Secondary Schools and Universities* in China. Next, we will explain the types and characteristics of international education programs in China. Third, we will examine the introduction status, characteristics, and utilization methods of AP in China.

As a result, it was found that AP is enforced as an international education program by foreign

schools and international departments and classes of public high schools in China. AP is positioned as an effective means for Chinese students to access overseas universities. In addition, AP can be expected to be used as one of the evaluation criteria for more international students to enter Chinese universities. On the other hand, it will be necessary to incorporate *Articulation between Upper Secondary Schools and Universities* programs such as AP into the *Articulation between Upper Secondary Schools and Universities* system in China in the future.

キーワード：高大接続、Advanced Placement (AP)

Key Words: Articulation Between Upper Secondary Schools and Universities, Advanced Placement (AP)

## 1. はじめに

近年、少子化や高等教育の進学率の上昇に伴い、日本の高等教育機関においては、一般入試に加え、推薦入試やAO入試なども導入されるようになっており、大学入学試験に関する評価方法が多様化している。こういった高等教育の変容の中で、大学入学試験制度の役割が、従来の選抜機能から教育的な接続機能へと転換しつつある。他方、国際化・グローバル化の進展に伴い、新しい時代を生き抜き、かつイノベーション能力、自主性、思考力、問題解決能力などの資質を持つ人材を早い段階で育成・獲得することが日本の高大接続段階における喫緊の課題である。

上記の背景を踏まえ、文部科学省が2017年に「高大接続改革の実施方針等の策定について」の中で、高校教育段階、大学入試段階、大学教育段階における制度改革の方針を示した<sup>1)</sup>。その結果、学習指導要領の改訂や「大学入学共通テスト」の導入など、具体的な改革が導入・実施されるようになった。今回の高大接続制度改革の中で特に注目されるのは2020年度に導入・実施する予定の大学入学共通テストである。この大学入学共通テストは大学に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とするものである<sup>2)</sup>。また、大学入学共通テストは各大学が、それぞれの判断と創意工夫に基づき適切に用いることにより、大学教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することに資するもの<sup>3)</sup>であると位置付けられている。大学入学共通テストの役割について、大学入試センターが①大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題作成、②各大学が実施する試験との適切な組合せによる大学入試の個性化・多様化、③国公立大学及び公私立短期大学等を通じた入試改革、④アラカルト方式による各大学に適した利用の4点を取り上げている。大学入学共通テストの導入・実施が日本における高校教育と大学教育に大きな影響を与えることは言うまでもない。特に上述した大学入学共通テストが求める生徒の大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を高校段階でいかに育成するのは今後日本の高校教育段階における一番重要なこととして注目すべきであろう。

一方、高大接続に関する制度改革が日本だけではなく、周辺のアジア地域にも急がれている。その中で、特に近年隣国の中国においては、国民全体の資質能力を向上し、かつ高度な人材

を育成するために、高大接続改革に対する試みが多数行われている。

本稿はこうした多様化している中国における高大接続の事例の中で、アメリカの Advanced Placement（以下、AP）に注目し、その中国における活用状況、果たしている役割および課題を検討する。次章で本稿の課題設定と先行研究を述べておく。

## 2. 課題設定と先行研究

前述したように、近年中国においては、国民全体の資質能力を向上し、かつ高度な人材を育成するために、高大接続改革に対する試みが多数行われている。その中で、最も注目されるのが新大学入学試験制度<sup>4)</sup>（中国語：「全国統一大学入学試験」、以下大学入学試験と略す）の導入である。2010年に中国の国務院が「国家中長期改革と発展綱要」（2010年－2020年）を公布し、大学入学試験制度の改革を国レベルの重要な議題と位置付けるようになった。その後、2014年に「国務院による入試・学生募集制度改革の深化に関する実施意見」の公布により、中国における新大学入学試験制度が創設された。この新大学入学試験制度が全国で一斉実施・普及するのではなく、2017年から上海市と浙江省で試行されることになっている。2020年度に改革決定後1回目の新大学入学試験が上海市と浙江省で実施された。

今回の新大学入学試験の実施が国民全体の関心事として注目を集めている。その理由は今までの大学入学試験が1977年<sup>5)</sup>より再開されたもので、国の経済発展に人材を選抜する役割を担ってきたが、一生に一回の試験で大学への進路を決めるといふいわゆる一発勝負によって受験生の受験機会が奪われていると指摘されてきた<sup>6)</sup>からである。また、今までの大学入学試験が学力のみを重視する「詰め込み教育」であるとも批判されていた。中国教育部は今までの大学入学試験の問題を改善・解決するため、新大学入学試験における具体的な改革方針を示した。具体的には、生徒により多くの受験機会と選択権を与えること、生徒の高校段階の学習状況を重視し、生徒をより全面的・総合的に評価することが挙げられる。だが、今回の改革は大学入学試験において、生徒の高校段階の学習状況を含めて評価するといった特徴がある一方、生徒の大学の専門知識に関する理解度に対する評価が十分に反映されたとは言えない。高校段階における大学の専門知識に対する学習機会を提供することが生徒の大学段階の学習にも有益な効果があると考えられる。高校段階で大学の専門知識に関する学習機会を提供する高大接続プログラムとして、アメリカのAPが挙げられる。本稿はこのAPに注目し、APが中国における活用状況、果たしている役割を検討する。

中国の高大接続改革に関する先行研究について、大学入学試験制度の改革に注目するものが多い。例えば、劉が中国の大学入学試験制度と基礎教育の関係を分析した<sup>7)</sup>。楠山が中国の大学入学試験改革における地方・大学への権限委譲について検討した<sup>8)</sup>。また、南部らによる東アジアの大学・大学院入学者選抜制度を詳細に比較したものがある<sup>9)</sup>。

一方、大学入学試験制度以外の高大接続プログラムに関する研究もある。例えば、小川・小野寺がアジア地域における高大接続プログラムを詳細に紹介した<sup>10)</sup>。また、2014年より中国で新しく実施された Chinese Advanced Placement (CAP) の事例を取り上げている研究もある<sup>11)</sup>。筆者が今までに、APの特徴や効果、大学での活用方法、教員研修の在り方などにつ

いて、アメリカのニューヨーク州の事例を通して検討した<sup>12)</sup>。その中で、APが生徒の学習意欲を向上し、大学の専門知識への理解を深めることができる高大接続プログラムであると評価された。またAPを普及させる有効な制度設計を明らかにするため、州レベルの政策としてAPを取り上げたアメリカのアーカンソー州の事例<sup>13)</sup>を検討した。だが、APがアメリカ以外の地域に普及するプロセスやその国の高大接続における位置付けや果たしている役割などに関する研究が少ない。

本稿は、上記の課題設定と先行研究を踏まえ、近年APの実施規模が拡大する傾向にある中国に注目し、APが中国に普及する状況や中国の高大接続における位置付けや果たしている役割などを明らかにする。具体的には、まず、中国における高大接続の特徴及び改革動向を明らかにしたうえで、APを含める中国における国際教育プログラムの種類、特徴及び近年の改革動向を紹介する。そのうえで、中国におけるAPの実施現状、特徴及び活用方法などを、AP実施校の事例を通して分析する。最終的には、生徒の学習意欲を向上し、大学の専門知識への理解を深めることができる高大接続制度の在り方を探る。これらを明らかにすることが、中国の高大接続に対する理解を深めるだけでなく、今後の日本における高大接続制度改革への理論的・実践的示唆をもたらすといえよう。

### 3. 中国における国際教育プログラムの種類

前章は中国における高大接続改革の動向や本稿の課題設定及び先行研究について説明した。本章では中国における国際教育プログラムの種類を整理する。

中国国内における高大接続の仕組みとしては、大学入学試験以外に、1) 個別の高校において大学教員が出向いて授業を行う「出前授業」、2) 大学の内部を高校生に対して公開するオープンキャンパス、そして3) 実際に入学を希望する学生に対する入学試験の3つが中心である<sup>14)</sup>。

一方、中国国内の高大接続プログラムが展開されると同時に、海外の高大接続プログラムが国際化・グローバル化の進展に伴い、中国で受け入れられるようになっている。それは中国籍の生徒や中国の高校に在籍する外国籍の生徒が学習する国際教育プログラムである。本稿で取り上げるAPが、中国においては、A-Level<sup>15)</sup>、IBDP<sup>16)</sup> などと同じく国際教育プログラムとして位置付けられている。これらの国際教育プログラムを運営する主体が主として①外国人学校、②公立学校における国際部・国際クラス、③私立学校の3種類である<sup>17)</sup>。そのうち、外国人学校は日本のインターナショナルスクールのような教育機関であり、外国籍または香港・マカオ・台湾籍の生徒を募集対象としている。選抜方法が各学校による自主募集である。公立学校における国際部・国際クラスについて、募集対象が国際部と国際クラスでそれぞれ異なる。国際部が外国籍または香港・マカオ・台湾籍の生徒を募集対象とする一方、国際クラスが基本中国籍の生徒を募集している。選抜方法について、国際部が自主募集を行うことが多い。国際クラスの生徒募集方法は教育プログラムを認証する主体の規定により異なる。国際クラスにおける省の認証教育プログラムが中国の高校募集計画をもとに生徒を募集する。それ以外に市・県の認証教育プログラム、または無認証の教育プログラムがある。市・県の

認証教育プログラム、または無認証の教育プログラムは自主募集を実施することが一般である。さらに、私立学校は中国籍生徒を募集対象としており、自主募集を実施することが多い(表 1)。

2015 年と 2016 年の中国における国際教育プログラムの実施学校数を見てみると、2015 年に 597 校があり、2016 に 737 校がある。設置主体別から見てみると、外国人学校が 161 校(2015 年)から 121 校(2016 年)に増加している。私立学校が 256 校(2015 年)から 392 校(2016 年)に増加している。一方、公立学校が 225 校(2015 年)から 224 校(2016)へと横ばい状態が続いている(図 1)。

次章でこれらの国際教育プログラムの中に、AP がどのように位置付けられているのか、どのように活用されているのかを検討する。

表 1. 中国の高等学校における国際教育プログラムの種類

形式		募集対象	選抜方法	代表例
外国人学校		外国籍または香港・マカオ・台湾籍の生徒	自主募集	Wellington College Bilingual Tianjin
公立学校	国際部	外国籍または香港・マカオ・台湾籍の生徒	—	上海中学国際部
	国際クラス	中国籍生徒	高等学校募集計画に従う	人民大学附属中学校 ICC センター
			—	—
			自主募集	—
私立学校		中国籍生徒	自主募集	深圳国際交流学院

出典：中国教育在線「2017 中国出国留学発展趨勢報告」より筆者作成。

<https://www.eol.cn/html/lx/report2017/san.shtml#c1> (最終確認：2018 年 12 月 11 日)

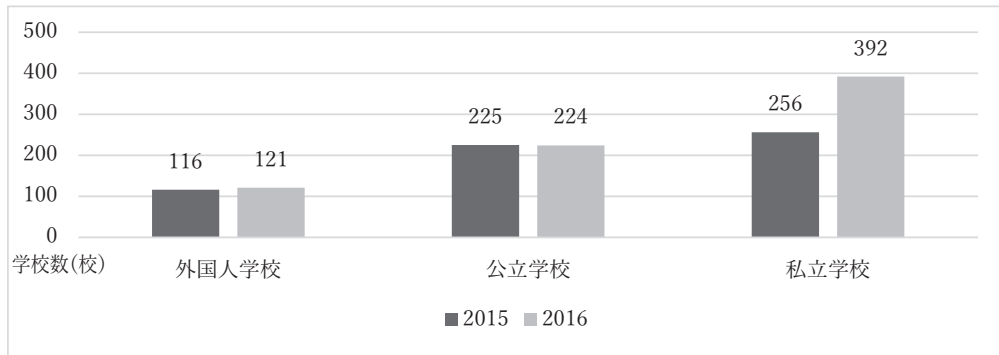


図 1. 中国における国際教育プログラムの実施学校数の推移

出典：中国教育在線「2017 中国出国留学発展趨勢報告」より筆者作成。

<http://www.eol.cn/html/lx/report2017/mulu.shtml>（最終確認：2018 年 12 月 11 日）

#### 4. 中国における AP の活用状況

前章では中国における国際教育プログラムの種類や特徴について説明した。本章は中国における AP の活用状況について検討する。

AP がアメリカの SAT<sup>18)</sup> の主催者であるカレッジ・ボードが 1955 年から実施してきた高大接続プログラムである。2020 年に合計で 42 科目が開講されている<sup>19)</sup>。米国国籍でない生徒の AP 試験受験者数は 2007 年の 35,098 人から、2020 年の 125,754 人まで増加している（図 2）。数多くの米国国籍でない生徒が米国の大学に進学するための評価資料の 1 つとして AP を活用しているとインタビュー調査より明らかになった<sup>20)</sup>。

2010 年より中国における AP の実施規模が拡大されるようになった。中国における AP の実施高校数が 2007 年の 17 校から年々増加している。2020 年に中国全国で 323 の高校が AP を実施している（図 3）。

中国の AP 実施校において、最も多く実施されている AP 科目はミクロ経済学（250 校）、微積分学 BC（244 校）、マクロ経済学（242 校）、統計学（221 校）、微積分学 AB（219 校）の 5 科目である<sup>21)</sup>。一方、ラテン語（文学）など、中国の AP 実施校において、開講されていない科目もある<sup>22)</sup>。また、AP 試験が中国全国の 29 地域で実施されている<sup>23)</sup>。

AP に対する単位認定を行う中国の大学は、北京大学、清華大学、北京外国語大学、北京言語大学、華東師範大学亜欧商学院<sup>24)</sup>、南方科技大学、香港中文大学（深圳）、寧波ノッティンガム大学<sup>25)</sup>、西安交通リバプール大学<sup>26)</sup> の 9 大学がある<sup>27)</sup>。単位認定の対象は中国籍生徒ではなく、中国籍ではない国際学生である。

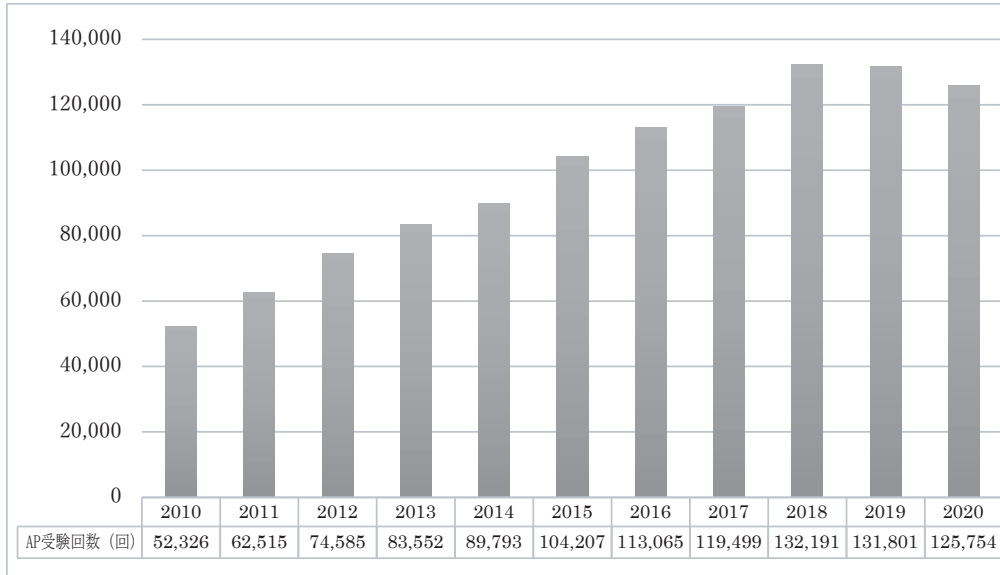


図 2. 米国国籍でない生徒の AP 受験回数の推移

出典：College Board, *AP Program Participation and Performance Data 2020* より筆者作成。

<https://research.collegeboard.org/programs/ap/data/participation/ap-2020> (最終確認：2020 年 12 月 10 日)

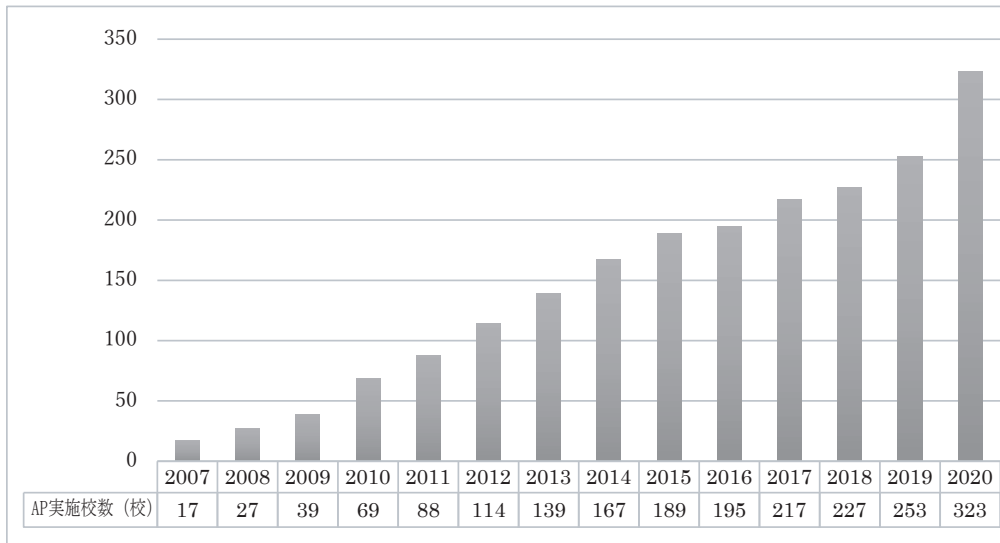


図 3. 中国における AP 実施校数の推移

出典：College Board, *AP Course Audit* より筆者作成。

<https://apcourseaudit.inflexion.org/ledger/search.php> (最終確認：2020 年 12 月 10 日)

次に上海市にある K 中学校の事例を通して、AP の実施状況や活用方法などを検討する。上海市にある K 中学校が 1944 年に創立され、2010 年に国際部を創立した。2014 年に上海市教育委員会より国際教育プログラム実施校<sup>28)</sup>として認定された。また 2014 年にカレッジ・ボードより AP 実施校として認定された。K 中学校の国際部がカレッジ・ボードより認定されている AP 科目は①アメリカ史、②世界史、③英語（言語と構成）、④英語（文学と作文）、⑤日本語、⑥スペイン語、⑦フランス語、⑧心理学、⑨微積分学、⑩物理学、⑪化学、⑫生物学、⑬マクロ経済学、⑭ミクロ経済学、⑮コンピューターの 15 科目である。また AP を担当する教員の 90%以上が修士以上の学位を取得している。2018 年の K 中学校国際部の募集定員が 60 名である。生徒の 100%が、海外の大学へ進学することになっている。具体的には、アメリカの大学に進学する生徒の割合が 86.1%であり、カナダの大学に進学する生徒の割合が 7.6%である。アメリカとカナダ以外の大学に進学する生徒の割合が全体の 6.3%を占める<sup>29)</sup>。K 中学校の国際部で AP 科目を履修することが、海外に留学する有効なアクセスの 1 つとして位置付けられていると考えられる。

## 5. 考察

本稿では中国における AP の実施状況、活用方法及び中国の高大接続における位置付けについて検討した。

中国においては 2020 年度からの新大学入学試験制度が実施され、生徒の高校段階における学習状況が大学募集時に重視されるようになった。また生徒の受験機会の増加により、本格的な高大接続改革が進められるようになった。一方、今回の改革は生徒の高校段階における学習を重視するようになったことが評価されるが、生徒の大学の専門知識に関する理解度に対する評価が十分に反映されていない。生徒の学習意欲を向上し、大学の専門知識への理解を深めるには、アメリカの AP のような高大接続プログラムが有効であると考えられる。特に生徒の国際的視野や問題解決能力の育成、自主的な学習意欲の向上について、AP は中国の高大接続制度改革の目標と合致するところがある。

本稿では中国における AP 実施校の事例を通して、中国における AP の活用状況を検討した。その結果、中国においては、AP は国際プログラムとして位置付けられており、生徒がアメリカやカナダなどの英語圏の国に留学するには活用されることが多い。また、AP を受け入れる中国大学の数が限られており、AP を高大接続段階における全国共通の評価基準として活用する基盤がまだ整っていない。今後国際化・グローバル化がさらに進む中、AP のような高大接続プログラムは中国籍生徒が海外に留学する際の有効手段として利用するだけでなく、より多くの国際学生が中国の大学に入学する際の評価基準の 1 つとして活用することが期待できよう。また、中国国内の高大接続制度の中にも、AP のような高大接続プログラムを導入することが必要であろう。いわゆる、生徒の高校段階における学習状況の評価に加え、生徒の大学の専門知識に対する理解度も把握できるような高大接続の制度設計が望まれると考えられる。

本稿は文献調査を中心に検討したものとどまっており、実際に各 AP 実施校の特性や実



施実態を把握しきれていない。また、AP を受け入れる大学の現状や課題を検討することができなかった。AP のような高大接続プログラムが中国で実施・普及するには、教育現場の意見や課題を十分に反映しなければならない。今後、AP 実施校や AP を受け入れる大学へ継続的な調査が必要であると考えられる。これらを今後の研究課題として引き続き考察していきたい。

※本研究は、科学研究費 JSPS（平成 31 年度）若手研究〔課題番号：19K14123 の研究成果の一部である。〕

## 註

- 1) 文部科学省「高大接続改革の実施方針等について」[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2017/10/17/1396986\\_05.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/_icsFiles/afieldfile/2017/10/17/1396986_05.pdf)（最終確認：2020 年 12 月 10 日）
- 2) 大学入試センター「大学入学共通テストの仕組み・運営」  
[https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken\\_gaiyou/index.html](https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_gaiyou/index.html)（最終確認：2020 年 12 月 10 日）
- 3) 大学入試センター「大学入学共通テストの仕組み・運営」  
[https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken\\_gaiyou/index.html](https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_gaiyou/index.html)（最終確認：2020 年 12 月 10 日）
- 4) 新大学入学試験制度の実施方法、実施時期などについて、服部憲児、柴恭史、郭曉博、西川潤「高大接続をめぐる政策展開とその研究課題：日米中の大学入試制度改革と研究動向レビュー」『教育行財政研究』43 巻、2016 年、45-56 頁をご参照。
- 5) 中国における大学入学試験制度が 1952 年に確立したものである。1966 年から 1976 年に廃止され、1977 年に再び実施されるようになった。
- 6) 鄭曉江「又是質疑高考時」『粵海風』広東省文学芸術界連合会、2002 年、38-40 頁。
- 7) 劉海峰「中国大学入試制度と基礎教育の関係について」科学技術振興機構『第 55 号：中国の初・中等教育の現状と動向』2011 年 4 月。  
[https://spc.jst.go.jp/hottopics/1105elem\\_sec\\_education/r1105\\_liu.html](https://spc.jst.go.jp/hottopics/1105elem_sec_education/r1105_liu.html)（最終確認：2020 年 12 月 10 日）
- 8) 楠山研「中国における大学入試改革の動向－地方・大学への権限委譲に関する一考察」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第 51 号、2005 年、128-141 頁。
- 9) 南部広孝『東アジアの大学・大学院入学者選抜制度の比較－中国・台湾・韓国・日本－』東信堂、2016 年。
- 10) 小川佳万、小野寺香等『東アジアの高大接続プログラム』広島大学高等教育研究開発センター、2012 年。
- 11) 郭曉博「CAP (Chinese Advanced Placement) プログラム担当教員の養成制度の現状と課題」『京都大学大学院教育学研究科紀要』62 号、2016 年、185 頁、189 頁を参照。
- 12) 郭曉博「米国における高大接続を担当する教員の研修制度の役割と影響－AP (Advanced Placement) プログラムを対象とする事例調査から－」『教育行財政研究』第 45 号、2018 年、

13-24 頁。

- 13) 郭曉博「米国における高大接続の促進政策—アーカンソー州の Advanced Placement に注目して—」『地域連携教育研究』京都大学学際融合教育研究推進センター、地域連携教育研究推進ユニット、第2号、2018年、27-40頁。
- 14) 郭曉博「これからの高大接続制度改革の実現手法への試み—中国における AP の導入に注目して—」(研究ノート)『地域連携教育研究』京都大学学際融合教育研究推進センター、地域連携教育研究推進ユニット、第3号、2018年、96頁。
- 15) A-Level とは、General Certificate of Education, Advanced Level の略称で、イギリスの大学入学資格として認められる統一試験である。
- 16) IB が International Baccalaureate (国際バカロレア) の略称である。IBDP (Diploma Programme) は16歳～19歳までを対象としており、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を取めると、国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア資格)が取得可能なプログラムである。  
文部科学省「IB教育推進コンソーシアム」  
<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/> (最終確認: 2020年12月10日)
- 17) 中国における高校入試は毎年の6月中旬から下旬まで実施されている。省(日本の県に相当する行政単位)によって高校入試日の日程が異なる。省における認証教育プログラムについて、毎年の7月5、6日に志願者は希望校に受験することが一般である。
- 18) SAT が Scholastic Assessment Test で、カレッジボードが主催するアメリカの大学入学時に考慮する要素の一つである。
- 19) 2020年度に開講する AP 科目が①芸術歴史、②生物、③微積分学 AB、④微積分学 BC、⑤化学、⑥中国語・文化、⑦コンピューター・サイエンス A、⑧コンピューター原理、⑨マクロ経済学、⑩ミクロ経済学、⑪英語(言語と構成)、⑫英語(文学と作文)、⑬環境科学、⑭ヨーロッパ史、⑮フランス語・文化、⑯ドイツ語・文化、⑰比較政治・政策学、⑱アメリカ政治・政策学、⑲人文地理学、⑳イタリア語・文化、㉑日本語・文化、㉒ラテン語、㉓音楽原理、㉔物理学1、㉕物理学2、㉖物理学C(電気と磁気)、㉗物理学C(力学)、㉘心理学、㉙リサーチ、㉚セミナー、㉛物理学B、㉜スペイン語(言語と文化)、㉝統計、㉞スタジオアート:3-Dデザイン、㉟スタジオアート:3-Dデザイン、㊱製図学、㊲アメリカ史、㊳世界史(近代)の㊴コンピューター・サイエンス AB、㊵フランス語(文学)、㊶ラテン語(文学)、㊷スペイン語(文学と文化)の42科目である。  
College Board, *AP Course Audit*.  
<https://apcourseaudit.inflexion.org/ledger/search.php> (最終確認: 2020年12月10日)
- 20) カレッジ・ボードのアジア・パシフィック地域の事務局長の Sonny Lim 氏より。
- 21) College Board, *AP Course Audit*  
<https://apcourseaudit.inflexion.org/ledger/search.php> (最終確認: 2020年12月10日)
- 22) College Board, *AP Course Audit*  
<https://apcourseaudit.inflexion.org/ledger/search.php> (最終確認: 2020年12月10日)

- 23) Prometric, *Exam Location*  
<https://www.prometric.com.cn/apexamlocation> (最終確認：2020年12月10日)
- 24) 華東師範大学亜欧商学院が内外協力（中国の華東師範大学とフランスのEM リヨン経営学大学院）で設置される高等教育機関である。内外協力で設置される高等教育機関の定義について、南部広孝「中国におけるトランスナショナル高等教育」杉本均編『トランスナショナル高等教育の国際比較：留学概念の転換』東信堂、2014年、153-168頁を参照。
- 25) 寧波ノッティンガム大学が内外協力（中国の寧波大学とイギリスのノッティンガム大学）で設置される高等教育機関である。内外協力で設置される高等教育機関の定義について、前掲書を参照。
- 26) 西安交通リバプール大学が内外協力（中国の西安交通大学大学とイギリスのリバプール大学）で設置される高等教育機関である。内外協力で設置される高等教育機関の定義について、前掲書を参照。
- 27) College Board, International, *Find International Universities That Recognize AP*  
<https://international.collegeboard.org/students/ap/find-universities-recognize-ap> (最終確認：2020年12月10日)
- 28) 上海市は中国の直轄市であり、省と同じレベルの行政単位である。K 中学校の国際教育プログラムが省レベルの認証教育プログラムに相当する。
- 29) 上海市建平中学国際部  
<http://guoji.shxhd.cn/jp/news/4189.html> (最終確認：2020年12月10日)

(受付日：2020.12.10)